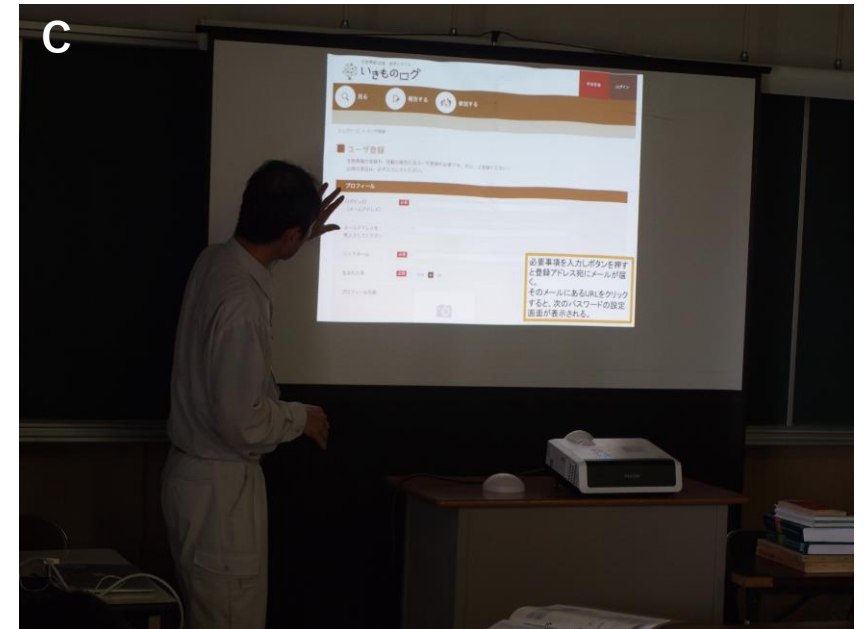


2019年(令和元年)8月31日(土) 14:00~17:00

「ひろしま県民いきもの調査」の一環として、本施設を利用した干潟観察会「ハチ干潟観察会 生きた化石カブトガニを見に行こう!」が行われました。市民の方12名の参加がありました。



広島県では生物多様性を守るため、市民から生き物の情報を集め生態系の変化に注目しています。竹原ステーションで行われた今回の観察会は、その一環として行われたものです。本施設は県と協力し、広く市民にも利用してもらえる取り組みを行っています。

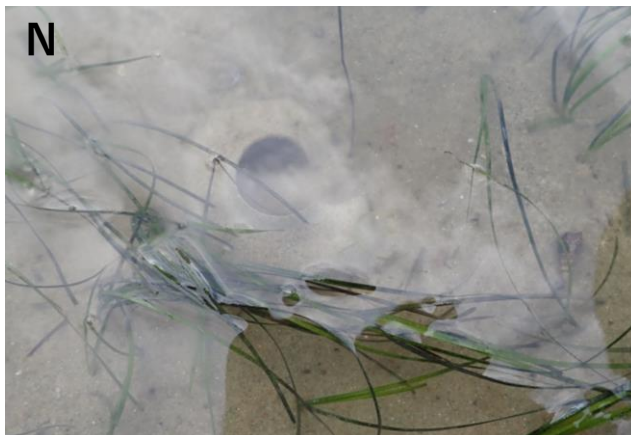
- A: ハチ干潟観察会のパンフレット。
- B, C: 広島県 自然環境課 職員による「ひろしま県民いきもの調査」についての説明風景。「いきものログ」の説明もありました。
- D: 広島県webサイト(キャプチャー画像)



- E:** 新聞記事を手にして、参加者にカブトガニ、そして干潟保全の重要性を説明する大塚 教授.
- F:** 参加者全員に広大オリジナル・コースターが配られました. このコースターにはカブトガニをモチーフにした広島大学オリジナル・公認キャラクターの「カブアキくん」が描かれています.
- G:** 実物のカブトガニの標本を手にとり講義を行う大塚教授. オスとメスの違いについて説明されました.
- H:** カブトガニと干潟について、参加者に講義をする大塚教授. スライドに映し出されているのが「カブアキくん」



- I: 川に沿ってに進んでいくと、その先にハチ干潟が広がります。(講義終了後、車に乗りステーションから干潟に移動しました)
- J: ハチ干潟の風景. 青空の下、生き物を観察する参加者.
- K: ハチ干潟の風景. 生き物を踏みつけないように注意深く歩きます. カニが食事をした後にできた砂団子があちこちで観察できました.
- L: 見つけたカブトガニを掌に乗せる参加者.



- M:** 岩場で見つけたカニ.
N: ツメタガイ (巻貝) の卵塊「砂茶碗」.
O: タマシキゴカイの糞. 有機物を食べ干潟を浄化しています.
P: カブトガニ. 尻尾を上げ防御の姿勢をとるカブトガニ.
Q: 砂茶碗を手に乗せ、参加者に干潟の生き物について説明する大塚教授.



R: 参加者と共にカブトガニを観察する大塚教授.
S: 砂の中にいるカブトガニを観察する参加者.
S': 砂の中のカブトガニ.
T: 見つけた小さなカブトガニを見つめる参加者.
U: 観察会終了後、生き物は元の場所に返されました.

